



学生データ分析AWARD

データを学ぶ場所は増えた。試す場所が、まだ足りない。

一般社団法人 学生データ分析AWARD 設立趣旨（案）

学生の「学び」と社会の「実践」に橋を架けるために

目次

- 01 背景 — 学びと実践のギャップ →
- 02 学生データ分析AWARDという場 →
- 03 座組と運営の原則 →
- 04 年間の活動と目指す姿 →

01

背景 — 学びと実践のギャップ

データ教育は急速に広がった一方、学んだ力を社会で試す機会は同じ速さでは増えていない。



学生データ分析AWARD

「最後の一步」が足りない



広がったデータ教育

データサイエンスやAIを学ぶ学生は急増しています。
かつて一部の理系学部に限られていた教育は文系を含む多様な学部へ広がり、統計・プログラミング・機械学習・可視化に触れる機会
は大きく増えました。

追いついていない実践機会

一方、「学んだことを社会の課題に使ってみる機会」は同じ速さでは増えていません。
大学が課外での実践・他校との協働・社会人からのフィードバック
まで支援するのは容易ではなく、学んだ力を誰かに届ける前に、彼らの学生生活が終わってしまいます。

➤ 私たちが向き合うのは、学びを社会へ届ける「最後の一步」の不足です。

学生と社会の「二重のミスマッチ」

専門職の入口は狭く

AIの発展により、専門職のデータサイエンティストに求められる水準はむしろ上がっています。大学院での研究・論文・コンテスト実績・長期インターンなど複数の経験を積んで初めて採用候補になるケースも珍しくありません。

求められる役割は広い

現場では、曖昧な課題を整理し、足りないデータを集め、関係者と調整しながら実行可能な提案まで持っていく人材が必要です。しかし「分析とビジネスの双方を理解し協働できる学生」は非常に少ないと企業は言います。

「高度な研究者か、一般総合職か」の二択だけではありません。
その間には、データで社会やビジネスの課題を解く、広く豊かなキャリアがあるのです。
しかしその入口は、学生にも教育現場にも企業にも、まだ見えていません。

02

学生データ分析AWARDという場

学歴や資格だけでは見えない力を、学生自身が発見し、社会もまた発見するために。



学生データ分析AWARD

分析精度を競うだけのコンテストではない

1

初対面のチーム制

初めて会う学生同士がチームを組み、議論し、意見の違いを調整しながら一つの提案をつくります。



2

正解のない実課題

限られた時間と不完全な情報の中で、社会やビジネスの課題に向き合います。唯一の正解は用意されていません。



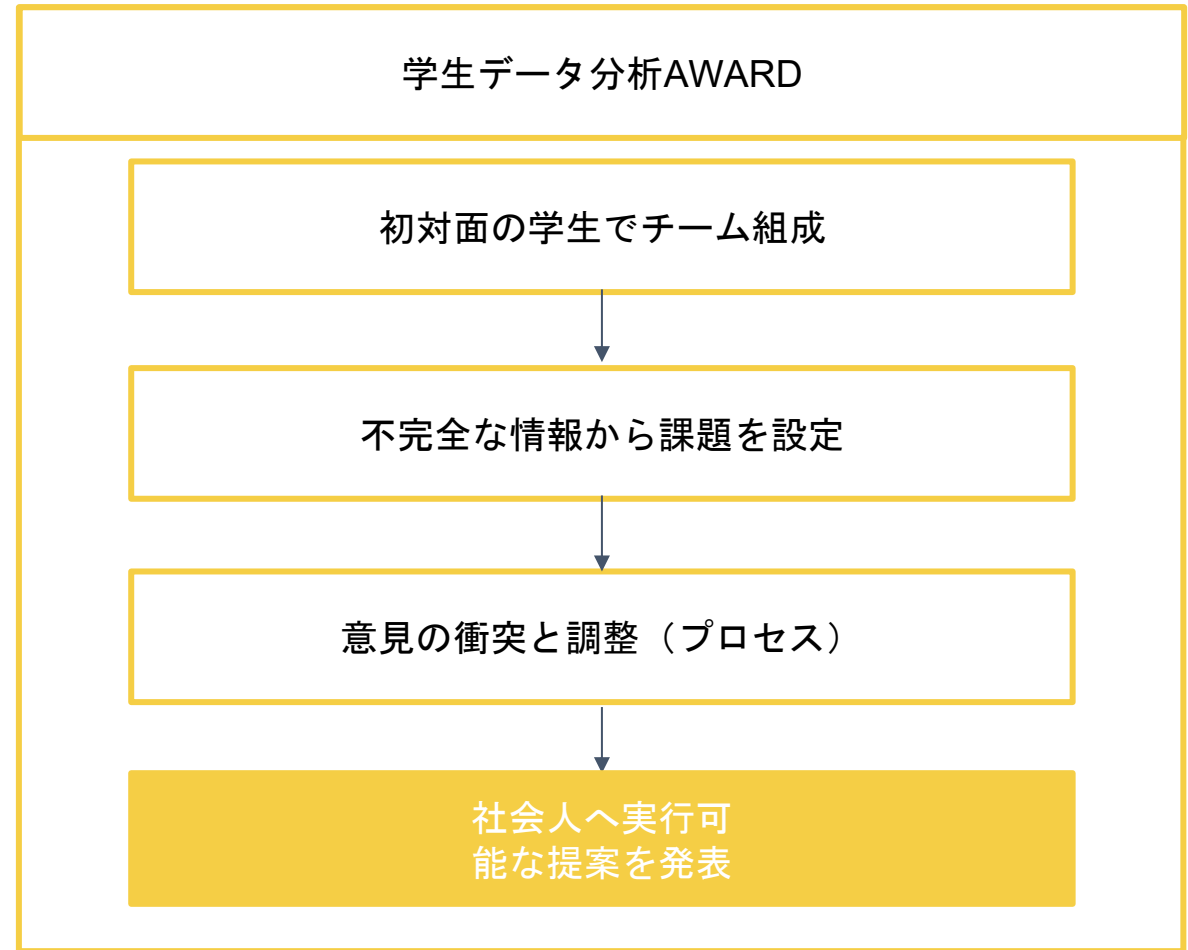
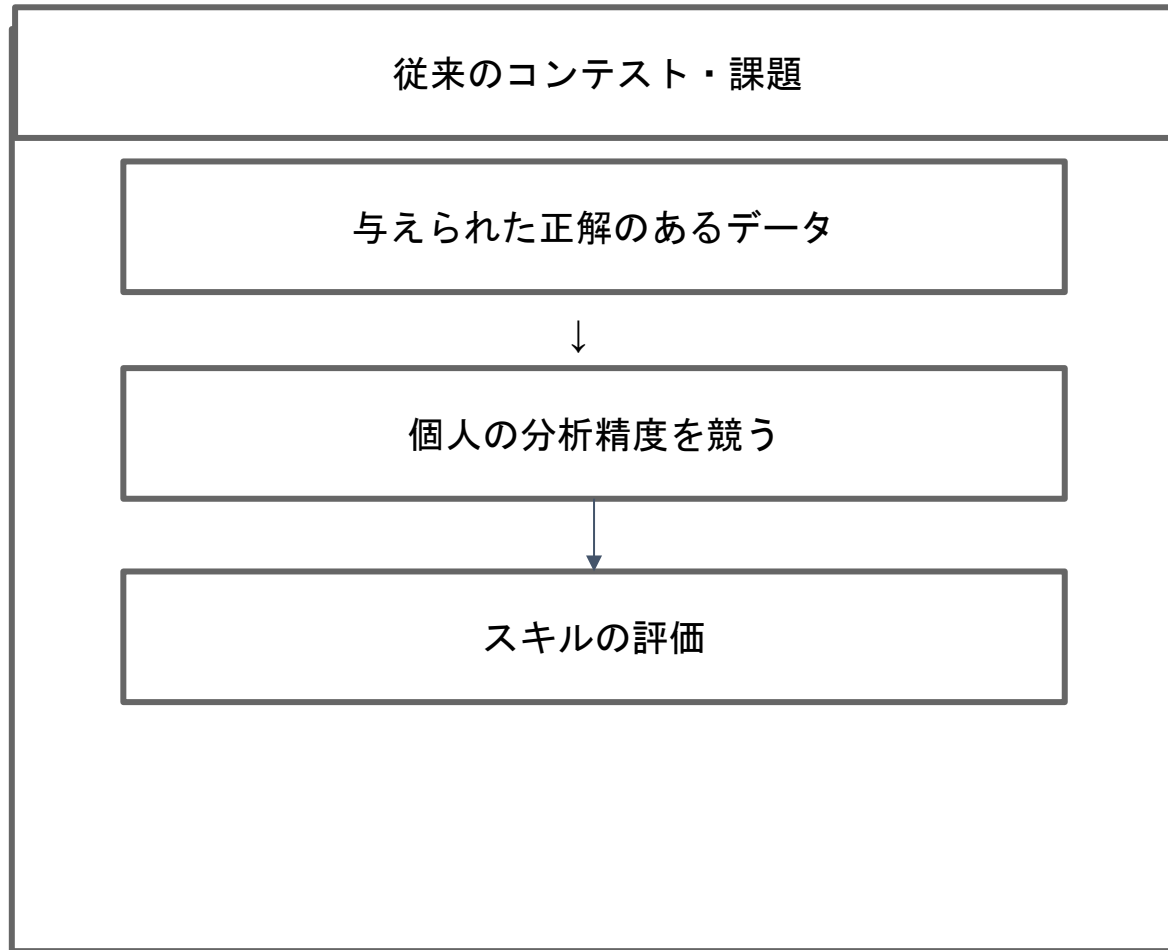
3

社会人へ発表・対話

実行可能な提案として社会人の前で発表し、多角的なフィードバックを受け取ります。



分析精度を競うだけのコンテストではない



教室の課題とは異なり、唯一の正解は用意されていません。
データ分析そのものの以上に、チームで意思決定する難しさと大切さを学べる場です。

AWARDで試される6つの力

求められるのは、統計手法やプログラミングだけではありません。

1 曖昧な状況から問いを立てる力

2 足りない情報を集める力

3 他者の立場を想像する力

4 異なる意見をまとめる力

5 分析結果を相手の言葉で説明する力

6 制約の中でも前へ進む力

私たちが育てたい人材

データを分析できる人を増やすだけでなく、

データを使って、誰かと一緒に社会を動かせる人を増やす。

曖昧な課題から問いを立て、不完全なデータや制約と向き合い、異なる背景を持つ人と協働しながら、実行可能な解決策を提案できる人。専門職のデータサイエンティストに限らず、マーケティング、企画、行政、地域課題、コンサルティング、研究、起業など、それぞれの領域にデータを持ち込み、人とデータの間をつなぐ人材を含みます。

賞を取ることがゴールではない

過去の参加者の中には初対面の仲間や社会人との出会いをきっかけに、自分の力を認識し、その後の研究、就職、起業、海外での活動など、次の挑戦へ進んだ学生も。

学生の可能性は、学校名や資格、分析モデルの精度だけでは測れません。テーマの見つけ方、対象への入り込み方、チームへの貢献、社会へ届けようとする意志の中に、これまでの評価軸では見つけられなかった力があります。

**自らの力を学生自身が発見し、
社会もまた発見するための場です。**

小さな大会から、社会の共通基盤へ



チーム制の導入により、個人の分析力だけでは見えなかった協働・対話・意思決定・リーダーシップが表れるようになりました。

03

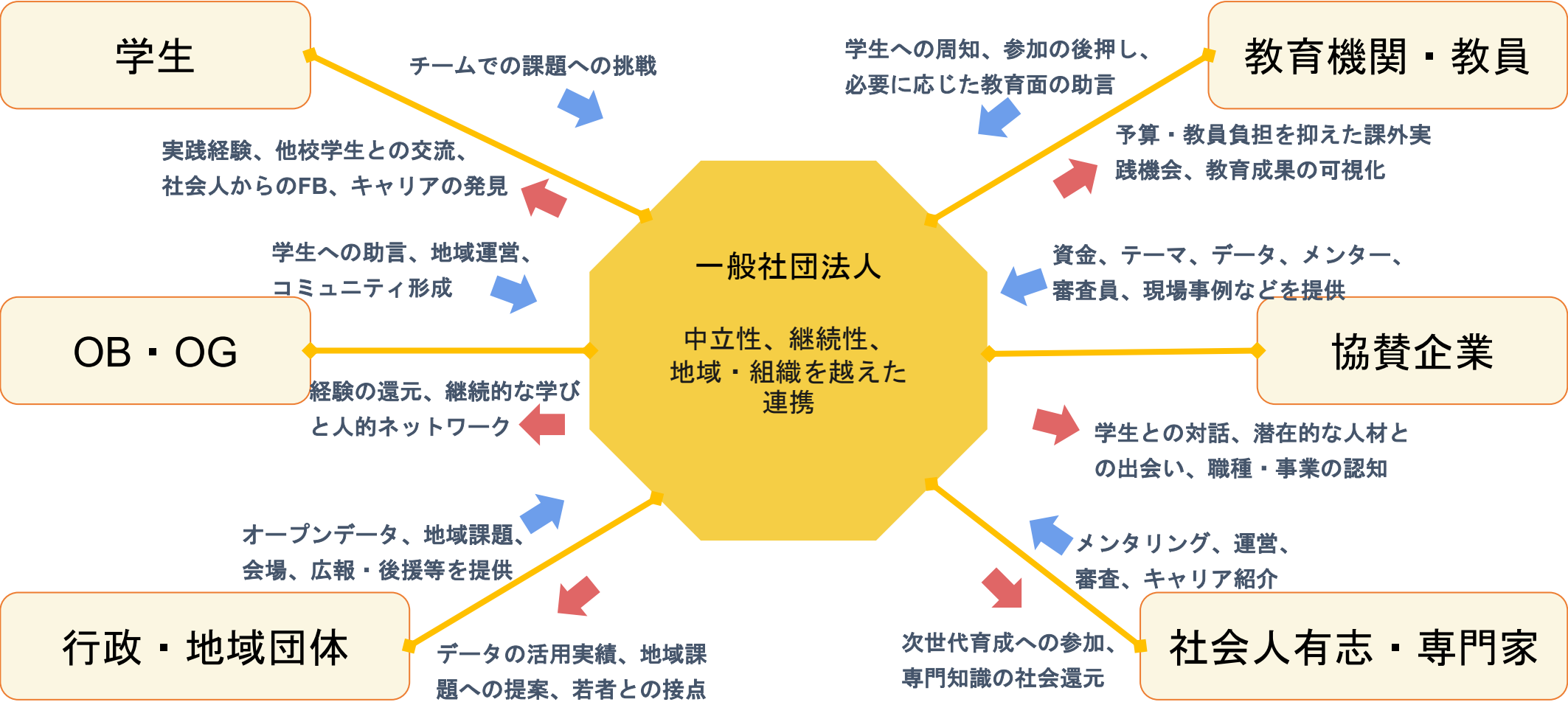
座組と運営の原則

特定の企業・学校・行政に属さない一般社団法人が、継続的で中立な事務局を担う。



学生データ分析AWARD

想定する座組（図示式）



想定する座組（表形式）

主体	主な役割	得られる価値
学生	チームで課題設定・分析・提案・発表	実践経験、他校交流、社会人からのFB、キャリアの発見
教育機関・教員	学生への周知、参加の後押し、教育面の助言	負担を抑えた課外実践機会、教育成果の可視化
協賛企業	資金・テーマ・データ・メンター・審査員の提供	学生との対話、潜在的人材との出会い、事業の認知
行政・地域団体	オープンデータ・地域課題・会場・広報の提供	データ活用実績、地域課題への提案、若者との接点
社会人有志・OBOG	メンタリング、運営、審査、経験の還元	次世代育成への参加、専門知識の社会還元、ネットワーク
一般社団法人	全体設計、資金管理、運営、個人情報保護、成果公開	中立性、継続性、地域・組織を越えた連携

運営の3つの原則

1

学生に負担を求めない

運営資金は企業協賛・社会人支援・クラウドファンディング等。学生・教育機関・行政に金銭的負担を求めず、旅費や食事も支援します。

2

個人情報を提供しない

企業との接点は積極的につくりますが、学生の個人情報や参加者リストを企業へ提供することはありません。

3

協賛と審査の分離

協賛額によって審査結果や学生の評価が左右されないよう、協賛・運営・審査の役割を可能な限り分離します。

04

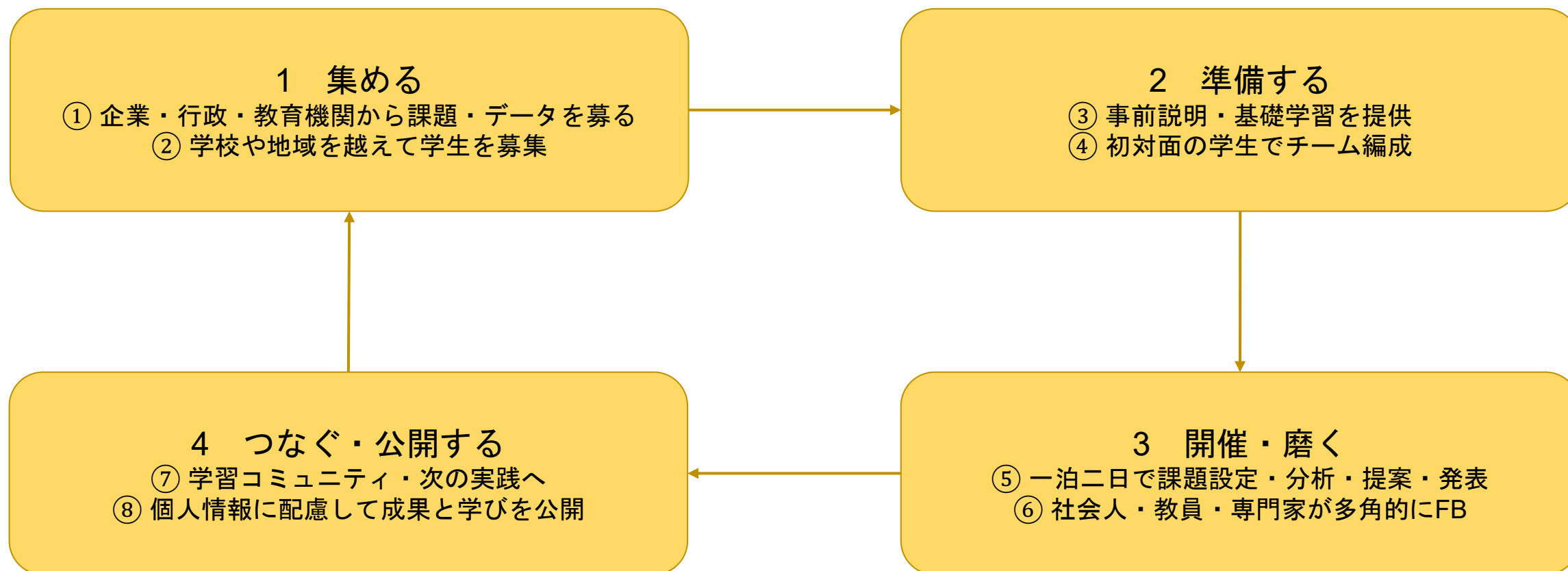
年間の活動と目指す姿

AWARDを一泊二日の単なるイベントだけで完結させず、学びと実践の循環をつくる。



学生データ分析AWARD

AWARDを中心とした年間の循環



評価の観点：課題設定／データの扱い／協働／説明の明快さ／実現可能性
開催後も進路・挑戦を追い、生み出した価値を継続的に検証します。

私たちが目指している姿

学生データ分析AWARDが目指しているのは、採用イベントを増やすことでも、賞を与えること自体でもありません。

- 学んだ学生が、社会に向けて最初の一步を踏み出せること。
- 企業が、学校名や資格だけでは見つけられなかった可能性に出会えること。
- 教育機関が、単位の外側にある実践を社会と一緒につくれること。
- 行政や地域が、公開したデータを若い世代の視点で活用してもらえること。

その間に橋を架けることが、私たちの役割です。

いつか、こうした橋が特別なものではなくなり、どの学生にも実践と発表の機会がある社会になれば、この法人は役割を終えるかもしれません。

それまでは、学生が学んだことを「学んだまま」で終わらせないために。

まだ十分に知られていない社会の仕事をつなぐために。

私たちは、学生データ分析AWARDを、多くの人の力をお借りしながら運営したいと考えます。

創設メンバー紹介



吉田 裕宣（マエス）
＜代表理事＞

これまで多くの学びと機会をいただいたデータ業界への恩返し、本活動に取り組む原点です。学生がデータを学ぶだけで終わらず、実社会の課題に挑み、学校や地域を越えて仲間と出会い、自らの可能性を広げられる場をつくりたい。次世代の学生がさらに活躍できる土台として、この活動を長く育てていきます。

【経歴】株式会社船井総合研究所を経て、2018年に株式会社HR Forceの創業に参画し、CDO兼事業責任者を務めた。2022年に法人番号株式会社を創業し代表取締役就任。大正大学で非常勤講師としてデータサイエンスを担当するなど幅広く活動。4年間続けてきた有志活動を法人化し、一般社団法人学生データ分析AWARDを設立。



坂宗 純治（JJ）
＜理事＞

4年前に有志で始めた小さな取り組みが、多くの学生の熱量に支えられ、こうして法人として実を結びました。これまでの事業開発やプロジェクトマネジメント、データ活用の経験をフルに活かし、学生が本気でデータと向き合い、社会を動かす一歩を踏み出せる最高の挑戦場を作り上げていきます。

【経歴】株式会社アスクルを経て、2021年に株式会社シンカーに入社。PMグループや事業開発グループのマネージャーを歴任後、株式会社リクルートのデータ推進室に従事。現在は再び株式会社シンカーにて、多岐にわたる事業・プロジェクトを担当。その傍ら、吉田氏とともに4年間続けてきた有志活動を法人化し、一般社団法人学生データ分析AWARDを設立。



豊重 貴聖（TT）
＜理事＞

立場やしがらみにとらわれず、社会貢献ができる機会を探していた中で本活動と出会い、参画を決めました。これからの時代を担う学生たちにとって、より良い成長と挑戦の場となれるよう、精一杯活動していきます。

【経歴】前職の半導体製造会社にて、製造装置の保守業務や社内SEとしてスマートファクトリー推進に従事。その後、62Complex株式会社へ参画し、現在は空間センシングに向けたデータ解析システムの開発を担当している。



浅野 高志（あさの）
＜CMCO＞

学生の皆さんが新しい世界と出会える場を自分たちの手で作れるということにやりがいを感じ、この活動に参画しました。本職であるマーケティングとイベント運営の経験を活かして、本AWARDを着実に世の中に根付かせていきたいと考えています。

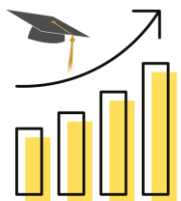
【経歴】中小企業向け経営コンサル企業にて、新規営業やマーケティング、DX推進、新規事業立ち上げを経験。その後、大手メディア企業でIT系イベントの企画、商品開発、事業戦略を担当。現職のSaaSベンチャーではイベントマーケティング責任者として、組織運営および部門戦略の推進に従事している。

学びと社会に、橋を架ける。

学生が学んだことを「学んだまま」で終わらせないために。

まだ十分に知られていない社会の仕事とつなぐために。

多くの人の力をお借りしながら、学生データ分析AWARDを運営していきます。



学生データ分析AWARD

お問い合わせは info@studentdataaward.org

取材・報道関係は pr@studentdataaward.org